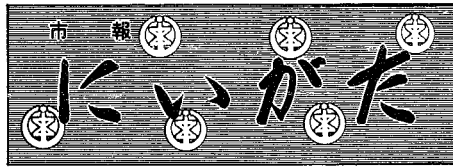


新春特集

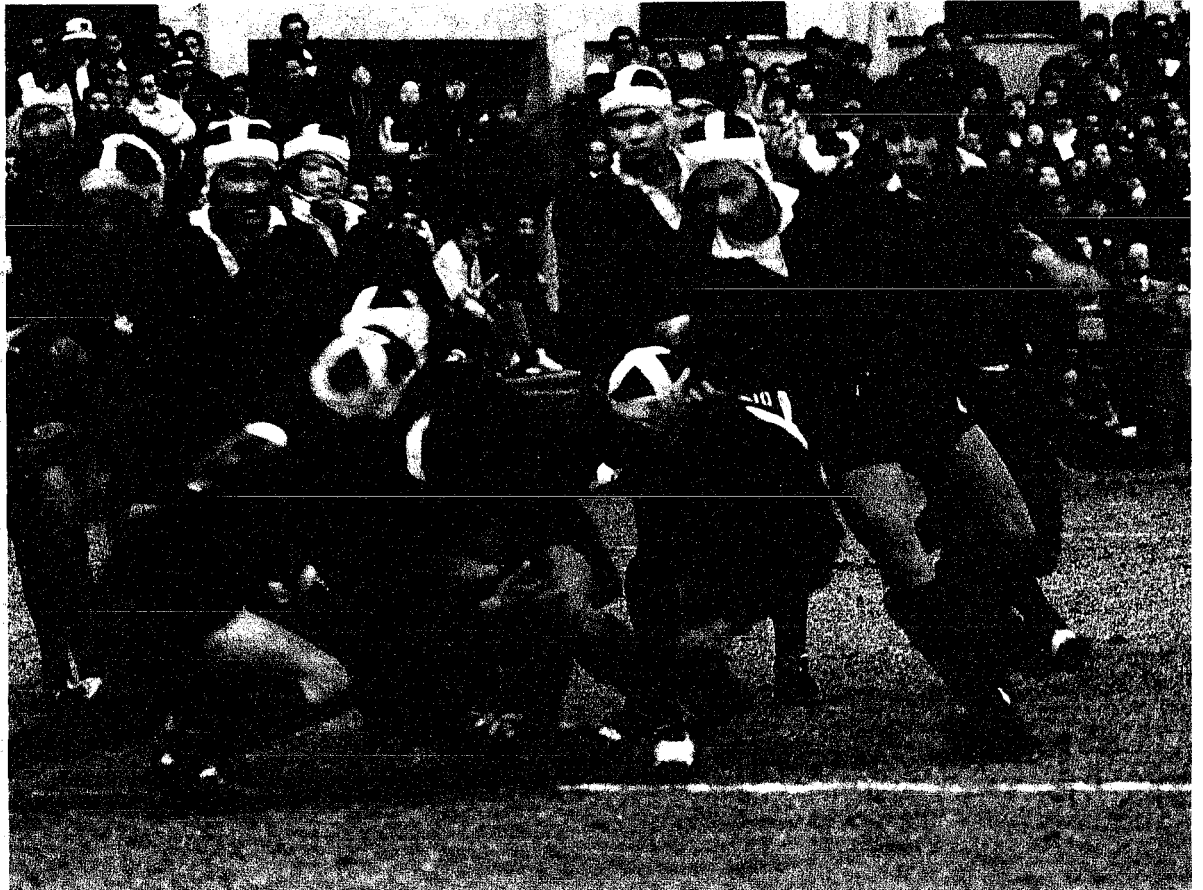
本号は新春特別
企画を組んだため、
題字が変形になっ
ております。



発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西通 6 番町
8 6 6
電話 代表(28)1000
編集人 高橋 甲子
(担当市民企画部広報課)
印刷所 鶴第一印刷所

市の人口

前川比	
人 口	445,812 (+569)
男	218,737 (+233)
女	227,075 (+336)
世帯数	140,345 (+207)
54年11月末日現在	



駆けろ若駒

新潟工対魚津工 新潟工・渡辺が右中間にトライ。新潟工は14年連続で大阪花園で行われた全国高校ラグビーフットボール大会に出場しました。

80年代の幕明けにあたって

市民のみなさん、新年おめでとうございませう。昨年はようやく景気も上向きになり、経済活動も勢いをつけてきたのですが、今年は果してどのように推移するのか予断を許さないといわれています。また消費者物価の値上がり心配されており、市民生活にとっても、経済活動にとっても相変らず苦勞の多い年になるのではないかと思います。くれぐれも健康に気をつけて頑張っていたきたいと思います。

さて昨年新潟市は市制九十周年の記念すべき年でした。今年には市制百年に向けて、そしてよくいわれている「八十年代」の第一歩です。いわば次への飛躍の第一歩ですから、私は心を新たに市政にとり組みたいと思います。

私は一期目と二期目に入った現在まで、市民生活優先の基本を貫いてきたつもりです。もちろん、財政事情などの諸条件の中ですからも必ずしも考え通りにはいかないのですが、市民各位のご協力をいただきながら、相当の成果をあげることができたのではないかと自負しているところです。しかし市民の立場で考えたときに、解決すべきものが山積しており、私の責任の大きさをいまさらのように感じているところです。このために私は、日常の努力を重ねながら、やがて作業の終る「生活環境基準(ビルミニマム)実現のための行政計画に基づく第一歩を踏み出すことには」といいます。そして市制百年、さらに二十一世紀の新潟のあるべき姿を明らかにする「新潟市都市問題懇談会」の提言をうけ、私たちの子や孫たちに残す、すばらしい「ふるさと新潟」の都市づくりのスタートを切るのが、この昭和五十五年、一九八〇年であると考えているところです。

私は、このような具体的方向を目指して市民の参加を得ながら、着実に前進する時に、単なる言葉でなく、本ものの「地方の時代」の幕明けになると信じます。市民のみなさんのご多幸を祈ります。私も頑張ります。

昭和五十五年一月一日

新潟市長

川上喜八郎